

女性用新薬の開発 女性に特化した疾病を標的にした 358 種類の革新的新薬

女性が罹りやすい 30 を超す疾患が標的になっている。現在、製薬会社が開発に取り組んでいる女性用新薬は 358 種におよんでいる。さらに、毎年 50 万人の女性の生命を奪う心臓病と脳卒中の治療薬として 122 種類、女性のがんによる死因の第 1 位である肺がん 68 種の開発にも取り組んでいる（詳細は 34 ページ参照）。

米国研究製薬工業協会（PhRMA）が調査し、本報告書にまとめたものは、すべて臨床試験にあるか、米食品医薬品局（FDA）の審査段階にある。

米国の女性は、男性より 5 年以上長い 79.4 歳が平均寿命である。平均寿命が長ければ、病気に罹りやすい。本研究では、男女ともに最大の死亡原因である 3 大疾病、心臓病、癌、脳卒中とともに高齢になると罹りやすくなる疾患に焦点を当てている。

現在、開発パイプラインにある新薬は以下の通りである。

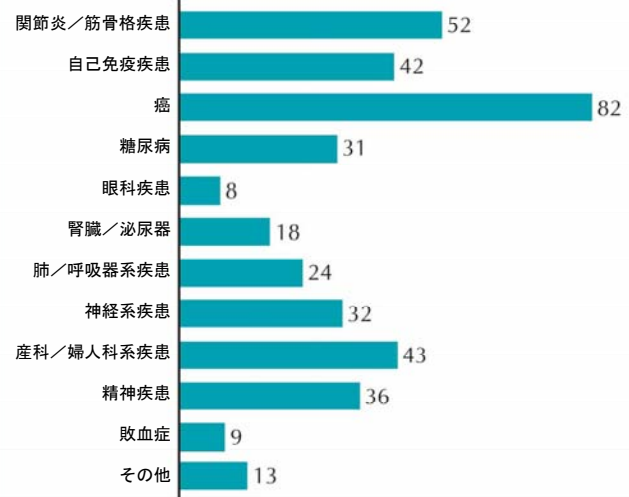
- 乳癌治療薬、58 種。13 分に一人の割合で米国人女性の命を奪っている。
- 卵巣癌治療薬、33 種。卵巣癌による死亡者数は、年間 14,000 人弱である。
- 関節炎治療薬、33 種。少なくとも 2,600 万人の米国人女性が関節炎に罹っている。関節炎は米国民のおよそ 2/3 が罹っている。米国経済の損失は年間約 650 億ドルで、その損失の大きさは、緩やかな景気後退に匹敵する。
- 骨粗鬆症治療剤、20 種。この疾病による損失は、病院コストや養護施設のコストだけでも年間 138 億ドルに上る。女性 2 人のうち 1 人は、一生のうちに骨粗鬆症関連の骨折を経験する。
- 糖尿病治療薬、31 種。米女性 810 万人が糖尿病に罹っている。
- 抗うつ剤、26 種。米女性 1,240 万人がうつ病に罹っている。
- 多発性硬化症治療薬、14 種。米国では 35 万人強が多発性硬化症に罹患している。女性の発症率は、男性のおよそ 2 倍。

その他に、ループス（狼瘡）、乾癬、強皮症、シェーグレン症候群、子宮頸癌、子宮内膜癌、緑内障、失禁、尿路感染症、喘息、慢性気管支炎、アルツハイマー病、片頭痛、産科婦人科系の障害、不安症、過敏性腸症候群、敗血症などの疾患の治療薬が開発中だ。

開発中にある女性用新薬の多くは新しい技術と斬新な方法で疾病に挑んでいる。一例を次に挙げる。

- 尿路感染症の治療薬で、原因となる膀胱の細胞に付着する細菌を防ぐ抗体を生成するワクチン。

開発中の女性用新薬*



* 2 つ以上の分野にまたがって挙げられている薬剤もある。

- 関節リウマチの炎症を防ぐ経口治療薬。炎症を起こす 2 つの主要な化学物質の生成を促す酵素を阻害する。
- ループス（狼瘡）の患者に不足しているホルモンレベルを上げる薬剤。
- 乾癬の原因である T 細胞の活動を阻害する薬剤。

フリーダ・ルイス・ホール博士は、女性用新薬の開発に取り組む企業は、「女性の健康」についてその定義を最近塗り替えた、と指摘する。

「（女性用新薬の課題は）単に妊娠中の健康状態や小児の健康に留まらず、より広く、深くなってきた。また、どれだけ長く生きるかではなく、どれだけ豊かに生きるか、どのようなクオリティ・オブ・ライフを得るかが課題になった。企業は、男女別の研究を行い、その類似点と相違点を考察している。これにより、現在そして将来にわたって、さらに女性をターゲットにした薬剤を提供していくことが可能となる」

Alan F. Holman

PhRMA 理事長
アラン F. ホーマー